



統一投稿規程と文献管理ソフト

北川 昌子

1. はじめに

最近、文献管理ソフトの話題をよく見聞きするようになった。例えば、有料の EndNote、GetARef、RefWorks や無料の文想 (Bunso) がよく知られている^{1,2)}。文献管理ソフトは、参考文献を電子ジャーナルや PubMed などの二次情報データベースから取り込み、投稿時の雑誌の投稿規程にあわせた参考文献を自動作成してくれるというような機能を主にもっている。収録されている参考文献スタイルは、2006年7月に発売された EndNote X (Windows 版) の場合で2300種類以上ある³⁾。

一方、世界で発行されてきた雑誌タイトル数は122万タイトル以上、毎年4~6万タイトルが増加している (ISSN Register)。参考文献のスタイルは、雑誌によって異なるのは当然ではあるが、それでも現行の様々な参考文献のスタイルは、ある程度整理された結果であった。

では、その原点はどこにあるか。実は、Uniform Requirements for manuscripts Submitted to Biomedical Journals (生物医学雑誌への統一投稿規程、以下統一投稿規程) に行き着く⁴⁾。統一投稿規程は、参考文献の書き方だけでなく、世界の生物医学系を中心とした学術雑誌の論文の書き方について、歴史上、学術出版界に大きな影響を与えたものである。

本稿では、文献管理ソフトに、統一投稿規程の影響をうけた多くの参考文献スタイルが収録されており、研究者は、文献管理のために文献管理ソフトを用いて一元管理する方向にあるという話題をとりあげたい。

(次頁へ)

[目次]

| | | |
|--------------------------|-----|---|
| 統一投稿規程と文献管理ソフト | ... | 1 |
| 続京大図書館史こぼれ話 第六回 | ... | 5 |
| 大図研京都数珠つなぎ | ... | 6 |
| 大図研京都ワンディセミナー (3/3) のご案内 | ... | 8 |

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール : dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL : <http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

2. 統一投稿規程の誕生

1957年ソ連が打ち上げたスプートニクによるスプートニクショックを機に、科学技術の遅れを取り戻そうとする欧米の影響で、論文の生産量は、1960年代に増大した。論文に抄録が付けられるようになったのも、本文を読まなくても内容を速やかに把握できるようにするためだった。しかし、論文数だけではなく雑誌の種類も増え、執筆者側は、投稿先ごとに投稿規程が異なるため、タイプライターで書き直す労力が大きな負担となっていた⁵⁾。

1978年、JAMA、Annals of Internal Medicine、Lancet、BMJなどの欧米の主要な生物医学系雑誌の編集者グループであるInternational Committee of Medical Journal Editors(ICMJE)は、カナダのVancouverで投稿規程の文献表記の世界的な標準化を目指すための第一回の会合を開いた。1979年には、統一投稿規程の第1版を発表した。統一投稿規程は、地名からVancouverスタイルとも言われているが、当初は、参考文献の記載様式を標準化することを主な目的としたものであった。

一方、Vancouver Groupとも言われるICMJEには、Medlineの製作者であるNational Library of Medicine(NLM、米国国立医学図書館)も参加しており、その意見がVancouverスタイルに反映されている。参考文献の並べ方を、1970年代までの伝統的なスタイルであったHarvard式(著者名順かつ年代順)から、本文に出現した引用順に変更したことや、雑誌名のすぐあとに出版年を記載して書架から探しやすくしたことが上げられる⁵⁾。世界に広まるきっかけは、1980年、VancouverスタイルをMedlineに採用したことであるともいえる。現在の統一投稿規程のWebサイトの参考文献スタイルをクリックすると、ANSI standard style(NLM)にリンクしている。これは、Medlineのsummary形式と同じスタイルで、著者名、論文のタイトル、雑誌名の略称、出版年; 巻(号): 始頁-終頁. の順となっている⁶⁾。

統一投稿規程は、1979年の第一版以降、少なくとも1982、1988、1991、1994、1997、2000、2001、2003年と数年毎に改訂され、現在(2006年)に至っている。

3. 統一投稿規程の内容

統一投稿規程は、当初より、参考文献だけではなく、論文スタイルの構成として、タイトル、抄録、キーワード、本文、図表作成等のスタイルや、略語、用語、記号の使い方を決めている⁷⁾。

論文の本文は、IMRADスタイルといわれるIntroduction(緒言)、Methods(方法、Materials and Methodsもある)、Results(結果) And Discussion(考察)から成る構成が記されており、各構成要素別にその書き方を示している。

緒言では、2003年版から、論文のトピックがわかるように、今回の研究の背景となった問題の内容とその重要性や、研究の目的や検証した仮説という2点を追加した⁷⁾。

抄録では、1993年版に、臨床系中心に用いるStructured Abstract(構造化抄録)という、EBM(Evidence Based Medicine、科学的根拠に基づいた医療)との関連でヘディング8項目によって簡潔にまとめられたスタイルを記載している。PubMedの検索結果でもよく見かけるが、2001年発表論文の臨床試験分野での構造化抄録の付与率は、英語圏でほぼ100%近くまで普及している(非英語圏では、日本16.1%、イタリア73%、中国100%)⁵⁾。

Vancouver Groupは、1984年からは出版・発表倫理の勧告もしている。1997年では患者のプライバシーに関する権利の保護をあげるなど、研究者の投稿に伴う心構え的な問題の比重は大きくなっている。二重投稿、多重出版、盗用・捏造等の不正行為などの科学者の倫理に関する記述は、2006年現在の統一投稿規程の中で、2/3程度のページを割いている。

医学系では500以上の医学雑誌が、統一投稿規程を採用していると言われる(2005年現在)。事実、「バンクーバースタイルに準拠する」という記載のある投稿規程は、日本の臨床系雑誌でもよく見かけられ、その記載がなくても、統一投稿規程を認識したうえで各雑誌の歴史にあった独自の投稿規程を決めているようだ。

2006年11月現在、ICMJJEのWebサイトには2006年2月にアップデートされた全文が掲載されている(図1)。旧版の日本語訳は、雑誌「医学のあゆみ」に掲載され、医歯薬出版のサイトで2003年11月改訂版として無料で読むことができる⁸⁾。また、三菱ウェルファーマのToukoutitei.netも医学論文投稿情報も詳細である。このほか、日本の科学技術情報流通技術基準「SIST02 参考文献の書き方」2003年版も、統一投稿規程の影響を受けていると見られる⁹⁾。

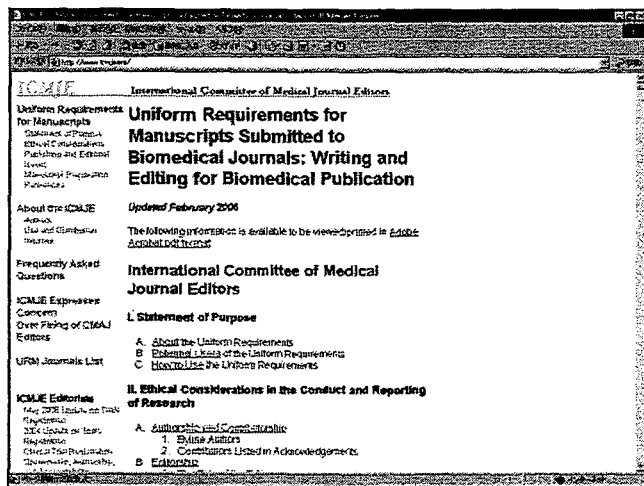


図1 ICMJEのサイト <http://www.icmje.org/>

4. 文献の一元的管理

ICMJJEが推進する統一投稿規程の、世界の学術出版会への影響や貢献度は大きい。研究者にとっても、質のよい研究を実施すると同時に、雑誌に論文が受理されやすい質のよい原稿に仕上げるため、この国際的な指針に従って書くことが必要とされる。しかし、雑誌数の増加に伴い、投稿規程の種類も様々であり、研究者にとっては執筆の時間の節約を図りたいのは当然である。

医学系では、投稿時に、まず、投稿スタイルの差を考慮のうえ、有名度の異なるレベルの雑誌を3種類選ぶ。最初の超一流の雑誌で論文が拒否されたのち、次の雑誌に再投稿するため、参考文献を一瞬に書式変更ができるソフトを薦める研究者が少なくない。

文献管理ソフトの一般的な特徴として、①個人の文献データベースの作成、②文献目録の作成(異なるスタイルの参考文献リストの自動作成) ③オンラインでの文献情報の検索と取り込み、全文文献リンクという機能がある。

今一番、普及していると思われるEndNoteは、Richard Niles博士が、1985年、雑誌の投稿スタイルに合わせて、参考文献を書き直す作業に苦心していた同夫人をみて考案した。毎年のように更新を続け、2006年はCD-ROMの形でVer.Xに至っている¹⁰⁾。日本国内では、当初は、医学系の研究者の個人購入が多かったようで、図書等で紹介されてきた。Ver.8(2004年)からUnicode対応となり、日本語の取扱も可能となったためか、最近では、医学図書館に人文社会学系研究者からの問い合わせが出るほど、その利用も多くなっている。提供元のトムソンによれば、2007年初めには、Web of Scienceを搭載しているWeb of KnowledgeにEnd Note Webも標準装備されるため、契約機関ではWeb上でも自由に利用できる予定という。

2001年に開発された後発のRefWorksも、Webベースで使うものだが、機関契約やトライアルをする大学が増え、話題を聞くことが多くなった。

前述の2つの外国の文献管理ソフトには、日本の英文誌の投稿規程による参考文献スタイルの収録はあるが数は少ない。収録されていない創刊雑誌や和雑誌については、参考文献スタイルを利用者自身が作成してデータベースにしていくことになる。機関契約のWeb版は、基本の参考文献スタイルを機関内で共有しており、収録以外の参考文献スタイルを個人がカスタマイズすることに制約があるため、より研究者向けなのは、個人の自由度の大きいCD-ROM版といえる。

5. 最後に

ICMEJの統一投稿規程は、学術出版界において投稿に関する世界標準化を目指しながら規範等の指針を示し、出版界や研究者への影響を与え続けている。参考文献スタイルは、現在の統一投稿規程のほんの一部となってしまうが、文献管理ソフトにはその影響を受けた多くのスタイルが収録されている。

執筆の効率化を目的とした文献管理ソフトが話題になってきた背景に、まず、インターネットによる文献検索データの利用がしやすくなったことや、雑誌数の増加に伴う投稿規程のスタイル数の増加という環境面での変化がある。また、執筆者側では、異なる参考文献の作成の手間の解消やフルテキストも管理できるという文献管理の基本的な目的が達成されるだけでなく、共同研究者間で同じソフトで文献を共有できるようになったという利点もあげられる。さらに、論文作成人口の増大、研究評価のための論文数の増加という社会現象も、文献管理ソフトによる一元的管理の需要の、今後の伸びにつながっていくと考えられる。

注および参考文献

1. 讃岐美智義. 研究者のための文献管理 PC ソリューション: PubMed/医中誌検索から論文執筆まで. 秀潤社. 2005. 3.
2. 文想工房: Bunso (オンライン) <<http://hp.vector.co.jp/authors/VA005818/>>(使い方は次が詳しい. 九州大学医学図書館参考調査掛編 医系学生・研究者のための情報検索・文献管理ガイダンス (オンライン) <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/med/mir.html#bunso> (参照 2006-11-19)
3. EndNote. (オンライン) <<http://www.endnote.com>> (参照 2006-11-19)
(京都大学医学図書館では講習会資料等を掲載.
<http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/databases.html>)
4. ICMJE. Uniform Requirements for manuscripts Submitted to Biomedical Journals. (オンライン) <<http://www.icmje.org>> (参照 2006-11-19)
5. 山崎茂明. 論文投稿のインフォマティクス. 中外医学社. 2003. 4.
6. NLM. Bibliographic Services Division. (オンライン)
<http://www.nlm.nih.gov/bsd/uniform_requirements.html> (参照 2006-11-19)
(<http://www.icmje.org/> の IV. A. 9. b. Reference Style and Format は上記にリンクしている)
7. 林健一. 医学論文の書き方. Jpn Pharmacol Ther, 33(5), 2005. 402-06.
8. 医学のあゆみ. 医歯薬出版株式会社. (オンライン)
<<http://www.ishiyaku.co.jp/magazines/ayumi/urm.cfm>>(参照 2006-9-21)
9. 科学技術振興機構. 科学技術情報流通技術基準. (オンライン),
<<http://www.jst.go.jp/SIST/handbook/sist02/index.htm>>, (参照 2006-9-21).
10. 讃岐美智義. 最新 EndNote 活用ガイド: デジタル文献整理術. 改訂第 2 版. 克誠堂出版. 2006. 9.
(改訂第 2 版は 2005 年 8 月出版だが、2 刷 (2006 年 9 月) には VerX の内容が加筆されている)

きたがわ まさこ (京都大学医学図書館)

続京大図書館史こぼれ話 第七回

京大草創期、図書館を巡って起った対立事件 その4

廣庭 基介

実は法科大学と附属図書館の間には、もう1つ別の火種が存在していました。この火種については、未だ嘗てどの資料でも公けにされたことはありませんでしたが、次ぎに述べるような経緯によって筆者が発見した一つの速記録に記載されていたのです。筆者は、現在の附属図書館の館屋（第三代目館屋）の建設が現地建て替えが決定して、整理課は理学部へ、閲覧課は法経学部へ、閲覧室は時計台1階の第一講義室へと約3年近く臨時疎開をすることが決まり、1981年には旧館を解体するのを前にして、現在京大博物館が建っている位置にあった旧書庫の内、最も北にあった鉄筋コンクリート四階建ての貴重書庫に詰め込まれていた、明治以来の埃の積もった文書類を整理した際に、長い年月で耐久性の弱った紙紐を十文字に掛けたB5版くらいの、これもすぐに破れそうになったハترون紙製の封筒に入った一つの文書の束が目につきました。それは昭和15年に所謂「皇紀2600年」を期して、『京都帝国大学史』の編纂が計画され、その編集に2年以上を費やして、昭和18年12月20日に発行されたのですが、その『大学史』の第1編第3章「図書館」の部分執筆するために昭和16年1月24日に、当時の本庄栄治郎第5代館長と竹林熊彦第7代司書官は、館長室に島文次郎初代館長・新村出第3代館長・草創期の附属図書館において囑託として図書整理を分担した狩野直喜文学部名誉教授（東方文化学院京都研究所初代所長にもなった）・山鹿誠之助第5代司書官の4人の来館を要請し、明治・大正期の附属図書館の歴史的事実について聞き取りを行いました。それを速記者が記録した原稿用紙だったのです。その原稿の中に次のようなやりとりが交わされている部分があったのです。

竹林：大惣の本は大惣がつぶれて売りに出た・・・。

島：東京の本屋吉川だった。聯合で買ったのだね。(廣庭注：明治30年当時、近江屋吉川半七、略して「近半」と云った現在の吉川弘文館のこと)

新村：名古屋と東京で調べれば調べられますよ。その時の事情等。

(中略)

島：何しろこっちは金がないでせう。法科の金を借った。法科の奴が何にすると云う訳で僕はすっかり責任を受けて、後でかえした。(廣庭注：法科の教官達から、そんな金を借りて何に使うのか、と不審に思われて、僕はその金を責任を持って返せ、と云われ、後できっちり返却した)

(中略)

島：弱った。あれだけ買っておいたら大したもの。何万円のものだ。(廣庭注：あの時は本当に困った。今となれば、あれを2,000円で買っておいれば良かった。昭和16年の現在なら、何万円の値打ちがある)

狩野：文学部の為の本が多いですからね。その時分には文学部は無いから法科の外の人が皆自分のことを考えるから、滅私奉公といふ訳にかぬ。学者は滅私奉公といふ訳にかぬ。(廣庭注：大惣本は殆ど文学部向きの書物ばかりで、その頃はまだ文科大学は創設されていなかったから、文科でない法科の人々が、自分達法科のことだけを考えるものだから、大所高所から良いと分かっている、学者というものは、自分の所属する学科のことを優先するものだから、滅私奉公という訳にはいかぬ)

新村：実際、総合大学であっても、矢張り自分の文学部をもり立てやうといふ意気の方が盛んだから。(廣庭注：総合大学といわれる大学でも、教官は自分が所属する学部をもり立てる気持ちが強いから、大きな目で見れば、大学全体の為になることでも、どうしても自分の所属学部に肩入れするものだ)

狩野：新しい学部が出来るといふことは不思議なものですよ。外の人是非常に賛成するが、内部の人は賛成せん。あんた方の経済でも、独立する時は、私丁度その時は文学部長で、私大いに賛成した。(笑声) 内部には本当の賛成が少ないですよ。それは頼りにならんものですわ。・・・そんなことを書かれては困るけれども。

[廣庭注：附属図書館の創設期4年間(明治32~35年)の図書費は3,611円しか無かったので、創設期図書費53,000円を配当されていた法科大学から借用したという訳です。狩野が文学部長であった時(大正8~11年)に、経済学部が法学部から分離独立した際に、法学部は分離に反対し、文学部は賛成したと云っているのです。]

(つづく)

ひろにわ もとすけ (元京大図書館員)

大図研京都数珠つなぎ

ブラームスとドイツの図書

坂本 拓 (京都大学文学研究科図書館)

ヨハネス・ブラームス。19世紀前半に北ドイツ、ハンブルクの貧民街に生まれながら、「3大B」として、バッハ、ベートーベンと並び称せられるまでになった、ドイツロマン派最大の作曲家である。緻密な理論的構築性の上に、ドイツの冬空を思わせるような、鉛色で静かで、そして耐えがたい郷愁をたたえた音楽を作曲していた。今回、私はこのブラームスの音楽が図書館から影響を受けた可能性について考察したい。

ブラームスは、哲学博士の称号を授与されていることからわかるように非常に博識で、10代の時から極めて旺盛な読書欲を持っていた。ウィーン楽友協会の資料室にも勤めていた音楽学者、カール・ガイリンガーの伝記によると、ブラームスは貧しい家計を助けるため、少年時代は夜中まで酒場でピアノ演奏のアルバイトをしていたのだが、その譜面台にはいつも楽譜ではなく本が置いてあり、彼は読書をしながらピアノを演奏していたらしい。しかし、貧しい彼は当然図書を購入することなどできない。いったいどこから彼は図書を入手していたのか？ここで登場するのが図書館である。ちなみに、ブラームスは晩年になっても、故郷ハンブルクや、ベルリン、ウィーンの公共図書館をよく利用していた。しかしブラームスの少年期、19世紀半ばにはまだ、今日で言うところの公共図書館はドイツには存在していなかった。そのためブラームスはわずかな小遣いから貸し出し料を払って、巡回図書館なるものから本を借りていた、とガイリンガーは述べている。少し、この時代のドイツの図書館事情を見てみたい。

ドイツでは、中世後期までは、法学、神学関係の資料を保存する、学術図書館と言えなくもない文書館が存在していた。しかし、18世紀の終わりごろには、啓蒙主義の影響で、一般大衆も自らが必要とする知識を獲得するための手段として、読書を志向するようになる。しかし高価な図書を大衆が購入することは非現実的であり、国や自治体が運営する無料の図書館がドイツで普及し始めるのも19世紀の後半、ブラームスの晩年のことである。具体的には、1893年にシカゴで開催された国際図書館大会にも参加したネレンベルクが、米国のパブリックライブラリーを参考に公共図書館普及の運動をドイツで行い、その成果が少しずつ出てくるのである。それ以前では、やはり渡米経験のあるラウマーの運動により、1850年に、ベルリンに市立の無料の図書館が設立されているが、この時点ではまだ、飽くまでも国家にとって有用な人間を訓育するためという、明確な方針のもとに選書が行われており、閲覧時間も制限されたものだった。このような公営の図書館以外に、特定のイデオロギーをかかげる組織が設立した図書館も多く、労働者団体が地下的に労働者図書館を作ったり、或いはカトリック、プロテスタント双方の協会が、啓蒙主義以降、信仰心が低下した民衆を再教育するため、図書館を設置したりしている。

ブラームスと関わりがあるのは、このプロテスタント系の図書館である。彼の故郷ハンブルクで彼の生まれた1830年代から、ヨハン・ヴィッヘルンという宗教家が、プロテスタント系の「キリスト教社会事業団」という組織を結成している。この組織は「社会的任務は福音告知と同等に重要である。」というテーゼの下に活動を行い、その「社会的任務」の重要な一要素として、民衆図書館の設立を掲げ『民衆図書館が収集すべき資料』という目録まで刊行している。また、ブラームスが利用していたという巡回図書館なるものは、1839年にザクセン地方でプロイスカーという図書館活動家が農村などにも図書が行き届くようにと、考案したシステムである。プロイスカーの活動はザクセンを超えドイツ全土で評価をされたらしいので、おそらく巡回図書館というシステムがハンブルクにも伝播したのであろう。つまり、ブラームスが利用していた図書館とは、キリスト教社会事業団が設立した図書館の巡回形式のものであった可能性が高いのではないだろうか。そしてこの図書館がブラームスの音楽にある程度の影響を与えたと思われる。

どの作曲家にも転機となる曲があるが、ブラームスの場合はドイツレクイエムという曲によって、ワーグナーと双璧をなす時代の寵児となった。通常レクイエムとはカトリック・ミサの伝統的なテキストを用い、歌詞が全てラテン語で書かれている。世界三大レクイエムといわれるモーツァルト、ヴェルディ、フォーレのものは勿論、ブラームス以前に書かれたレクイエムは全てそうである。しかし、ブラームスは一部の特権階級の言語であるラテン語ではなく、庶民の言語であるドイツ語でレクイエムを書いた。この曲は、愛する母の死という極めて個人的な動機から作曲されており、誰もが己の愛する人が亡くなった時に歌えるようにと、この静謐で温かな曲をドイツ語で書いたのだ。また特筆すべき点は、歌詞をルターがドイツ語訳した聖書から抜粋したということである。つまり、ブラームスはプロテスタントだったのである。プロテスタントであり、保守的な教義よりも、庶民への福祉に貢献する。これこそまさに、キリスト教社会事業団が図書館活動を展開した際に標榜した理念そのものではないだろうか。もし本当にブラームスの音楽が図書館から影響を受けていたのであれば、図書館員の端くれとしてこれほど嬉しいことはない。

参考文献

- ・ヴォルフガング・ダウアー、ペーター・フォドゼク共著『ドイツの公共図書館運動』（河井弘志訳 JLA 1992年）
- ・カール・ガイリンガー著“ブラームスの書庫”『ブラームスの実像』pp120-129(青木紀久子他訳 日本ブラームス協会編 音楽の友社 1997)

大図研京都ワンディセミナー（3/3）のご案内

京都支部では、下記のとおり京都ワンディセミナーを開催します。

テーマ：大学図書館の業務分析（仮）
日時：2007年3月3日（土） 午後1時半～
場所：国際交流会館第1会議室
講師：平岡健次氏（江戸川大学 学術情報部）

詳細は、追ってご案内致します。
みなさまのご参加をお待ちしています。

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2006年度（大図研会計年度2006.07 - 2007.06）に入っておりますので、2006年度の会費の納入をお願い致します。また、2005年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000（大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000）です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904

大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部（dtkk@rg7.so-net.ne.jp）、または支部委員（組織・財政担当）の大綱浩一
までお問い合わせください。